

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (No.26) 2009.12.10

もくじ

1. 9月度 ボランティア活動・報告
＜猪ノ川林道・自然観察と郷台作業所草取り作業他＞
2. 10月度(1) ボランティア活動・報告
＜北海道演習林：見学会＞
3. 10月度(2) ボランティア活動・報告
＜天津小学校：緑の教室サポート＞
4. 11月度 ボランティア活動・募集案内
＜冬の森を歩こうサポート＞

9月度 ボランティア活動・報告

～猪ノ川林道：自然観察と郷台作業所草取り作業～

石川 輝雄



カリガネソウ

9月25日(金)に猪ノ川林道の「自然観察と郷台の苗畑の草取り作業」をしました。

今回の作業は、例年行っている「秋のお月見研修」が「北海道演習林見学会」のため今年を取りやめとなったのでこれの代わりとして企画したものです。

当初は、前日の24日(木)に清澄学生宿舎に泊まって、秋の月や虫の声を楽しみ、次の日に自然観察や草取り作業をするという予定でしたが、宿泊希望者が少なく、25日のみの日帰り活動となりました。

参加者は石川夫婦、中原、刈込、米倉さんの5名です。当日は雲が多めながら晴れの天気で、日中は暑いくらいと感じられました。9時に清澄作業所に集合して、職員の才木さん運転の車で加勢林道入口まで送ってもら



ツルニンジン

い、猪ノ川林道を郷台作業所へ向かって歩き始めます。ここは春や秋の一般公開でお馴染みのコースで、ゆっくりと歩いて自然観察をしながら、写真を撮って記録します。予想していたカリガネソウ（群落）、ジャコウソウ以外にツルニンジン、ヤマホロシ、ミヤマキケマン、テンニンソウなどの花を見かけました。アケボノシュスランやミヤマウズラの花はなくなっていました。もう少し早い時期に咲くようです。今回の観察でも花の咲いている期間は短いことが分かります。今後も観察時期を少しずつ変えて観察すれば新しい発見があるとおもいました。また、見本樹の

ヘラノキには実とヘラ（総苞葉）が一面についていました。

郷台作業所に到着して昼食を食べてから、郷台作業所の苗畑まわり（モウソウチク・開花実験林の近く）の草取りです。職員の皆さんが刈払機で草を事前に刈ってくれていたもので、実際は草を片付ける作業です。刈った草を一輪車に積んで作業場の裏に運びました。

苗畑の周りの片付けが終わったので、引き続き苗畑の中の刈った草を同様に一輪車に積んで作業場の裏に運ぼうとしました。その時、職員の方から、わざわざ運んで捨てる必要はないよ、地面が出ている所に広げておけば良いとの声がかかりました。確かに刈り取った草はすでに枯れかけていて地面に広げても再度芽を出す感じではなく、地面の乾燥防止と肥料の役目をすると思いました。もちろん作業もはかどります。実際に作業の経験を多く踏まれた方の知恵と感心しました。



ヤマホロシ



ジャコウソウ

郷台作業所での作業終了後、清澄作業所まで才木さんの車で送ってもらいましたが、さらにお願ひして菖蒲沢の菖蒲の状態を見てきました。シカ防止の柵は破られた様子はなく、菖蒲は無事で安心しましたが、看板が水に濡れて文字が見えなくなっていました。

今度来た時に防水を強化したものに交換する予定です。

10 月度 (1) ボランティア活動・報告

～ 北海道演習林：見学会 ～



事務局 石川輝雄

「北海道演習林見学会」を10月4日(日)～6日(火)に2泊3日の日程で行いました。参加者は Abies 会員11名に、体験参加という形で森林インストラクター会他6名の計17名です。

時間も費用もかかる行事ですので事務局としては参加人数が

少ないのではないかと心配しましたが、皆さんの協力で定員(案内のマイクロバスの乗員数)にちょうど都合のよい人数となりました。

「大麓山登山」の時を除いて全般的に天候にもめぐまれ、トラブルもなく無事終了しました。参加された皆さん感激と満足をされて帰られたのではないかと自負します。

今回の見学会は Abies から北海道演習林へのお願いではなく、千葉演習林から北海道演習林へのお願いでしたので、手続き・連絡など千葉演習林の山田林長先生や才木さんにもお世話になりました。

対応は北海道演習林の宮本先生と村川さんをお願いしましたが、日程の間に休日があるなど無理なお願いをしたにも関わらず、準備から始まって最後まで、これ以上はない最高の形で対応していただきました。ちょうどお仕事忙しい時期のお願いで恐縮します。

改めてお二方を始め、北海道演習林の職員の皆さんに Abies 会としてお礼申し上げます。

今回の活動の感激を岩崎さんと森林インストラクターの和波さんにも書いてもらいました。

北海道演習林見学会に参加して

岩崎 寿一

「北海道演習林」は北海道の中央部に位置する富良野市にあります。冷温帯から寒帯の北方針広混交林帯に約23,000ha(千葉演習林の約10倍の広さ)の広大な土地で、“どろがめさん”こと高橋延清元北海道演習林長が提唱した「林分施業法」を実践して、環境維持に配慮しながら木材生産の効率を最大にする「天然林施業」の実験を行っている東京大学の演習林です。

この森はかつてテレビのドキュメント番組でも何度か紹介され、その美しさにとれ是非訪れてみたいと思っていた憧れの森です。

10月4日（日）一日目

ついにこの日が来ました。北海道に向けて「羽田空港」より出発です。

数日前に台風18号が発生し勢力を強めながら日本列島に向かっていましたが、当日の朝はまだ影響は無く天気は良好で、予定通り「旭川空港」に着きました。「JR富良野駅」までバスで約1時間、山並みが遠望出来る広大な大地、どこまでも続く緑の畑、時折白樺林が目に入ります。

14時40分に集合場所である「JR富良野駅」前に全員が集まりました。

北海道演習林の宮本先生、村川主任が出迎えて下さり、宮本先生の運転するマイクロバスに乗り込んで麓郷にある宿泊先の「セミナーハウス」に向かいました。

途中小さな白い綿の様なものがふわふわと飛んでいました。宮本先生のご説明では、初雪が間近になると現れる“雪虫”でアブラムシの仲間とのことです。40分程で「セミナーハウス」に着きました。同じ構内に「麓郷森林資料館」もあります。

空は青く澄み空気は冷たく清浄で、思い切り深呼吸。いよいよ本番です、心が躍ります。周囲にはアカエゾマツやカツラの大きな木があり、エゾヤマザクラやオオモミジが真っ赤に紅葉していました。

荷物をほどこき、見学の概要説明を受けるため森林資料館2階の講義室に集まりました。外見は、歴史を感じさせ風格のある建物です。麓郷作業所の開設当時の原型を残すように10年前に改修復元されたものだそうです。

ウダイカンバの板壁に囲まれた講義室に入り、宮本先生のご挨拶が終わると、先生からB4の紙が渡されました。「皆さんが考えている植林された森林と理想的だと思ふ森林のイメージをこの紙に描いて下さい。針葉樹は三角に、広葉樹は丸で表

して下さい」という問題です。どう描いたら良いやら見当が付きません、皆これには参りました。後で分かった事ですが、宮本先生達北演が目指している「理想的な森林」とはどのようなものなのか、これから2日間にわたって林内を見学することで理解ができる。そのための問題提起でありました。

北海道演習林の歴史、生態系、経済的機能など興味深いお話を伺いました。100年の



セミナーハウス



ウダイカンバの講義室で

歴史の中で職員がヒグマによる危害を受けたのは皆無であるとのお話には驚きでした。

夕食は宮本先生を中心に、北海道のごちそうを頂きながらの懇親会となりました。

その後、各自宿舎に入っても話はずんで、眠りに入った時間がかなり遅くなった方もいたようです。

10月5日（月）二日目

朝食後、マイクロバスに乗り込み出発しました。最初は「大麓山」への登山です。大麓山は標高1460mで、北海道演習林では一番標高の高い場所で山頂まで演習林の敷地内との事です。

鍵のかかっているゲートを開けて演習林に入り、トドマツの造林地を抜け「水無沢原生林」に着きました。ここは人の手を入れておらず原生林的状态を保っている森です。バスを降り林内に分け入ると、エゾマツ、トドマツやカツラ等が茂り、所々にギャップが開いている林床に、倒木更新の現場が有りました。見事に苔むした倒木の上に一直線になって若木が



水無沢原生林で

育っています。宮本先生の説明を聞いて、私の今までの知識が間違っていることを知りました。倒木の上で発芽した幼樹は倒木から養分をもらって成長するのではなく、倒木上に育つ事で雪腐れ病などの病原菌から守られ、共生菌によってかろうじて養分をもらい、カツカツ生きている（ナースログ）。並んで生えている幼樹のうち最も樹高の高い（150cm位）ものでも樹齢30年だとのこと。

マイクロバスは更にぐんぐん登って行き、標高600m程でエゾマツとダケカンバの針広混交林に入り、所々樹冠が大きく開いている処が有りました。1981年の台風被害の



大麓山へ登山開始！

痕跡だとのこと。標高950mを過ぎるとバスの終点、ここから徒歩です。ダケカンバが優先する疎林の道を歩きながら、先生からエゾマツ、トドマツの外見的判別法を教えてくださいました。トドマツは「天までトドケ」、エゾマツは「もおエエゾ」。

標高1230mの「大麓山登山口」に着きました。

空は青く澄んでミヤマナナカマドの紅葉、落葉したダケカンバの幹の白さ

が美しく、富良野の町が眼下に良く見えました。ハイマツが優占する高山帯の山道ではコケモモ、ゴゼンタチバナ、シラタマノキ、カラスシキミなど色鮮やかです。イワツツジの赤い実、ブルーベリーの実を口に入れながら登っていると、急に雨になりました。道の脇に小さな穴がいくつも有りました、ナキウサギの巣穴だと教えられ、頂上間近で鳴き声を聞いた様な気がしました。



大麓山山頂からの眺め

大麓山の頂上に着いたときは小雨が降り視界は霧でした。しかし記念写真を撮る時には程なく視界が開け、周囲の山々（下ホロカメットク1920m、富良野岳1912m）が姿を現してくれました。しばらく景色を堪能し又演習林の広さに改めて驚きながら下山しました。

マイクロバス迄戻り、林道にシートを広げて昼食です。豪華な弁当を食べ終わる頃、

突然ミズレが降ってきたので早々に撤収し下山しました。

次は「前山保存林」、ここは約70年前軽度の択伐を行ったが、その後は手を入れておらず原生林的特徴が良く現れている森林の姿をしている処です。雨の中、森に入り原生林の雰囲気を感じ取りました。

続いて「直営生産現場」へ向かいます。雨は止みましたが気温は大分下がってきました。すでに演習林の技術職員の方々が作業をしながら我々の到着を待っておられ、早速丸太生産事業の説明をしてもらいました。伐倒など一部の作業は業者に頼むが、ほとんどの作業は直営でやっているとのこと。説明の後すぐに大型重機による作業の実演です。伐倒木をハサミ状の装置の付いた重機で集材し土場まで運び、規格寸法に測定し、チェーンソーで玉切りする。これに極印やチョークで「品等格付」の表示を行う。これが終わるとグラップル付きバックホーで土場に集積する。高性能大型重機を使い、少人数で作業するノウハウを蓄積し、技術の継承や開発に携わっているとのことでした。



直営生産現場で

生産現場を後にして天然更新試験地を經由して「湧き水」を見学しました。此処は大雪山系の火山噴出物の堅い岩盤が露出した場所で水が岩盤に沿って湧き出しているとのこと。豊富な水量の湧き出し口から汲んでもらった水を飲んでみました。とても冷たくて美味し

い水でした。

本日最後の目的地、「樹木園」に向かいます。太陽は西に傾き、ゲートを出て西に向かって走る我々のバスの正面に、太陽を背に受けた夕張山地と芦別岳のシルエットがクッキリと見えています。



樹木園の苗畑

16時過ぎ、「樹木園」に着きました。ここでも技術職員の方が我々の到着を待っていて下さり、早速苗畑に案内され、説明して頂き

ました。此処の苗畑はものすごく広いので雑草取りが一番大変だと思いました。主要な造林樹種はトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツの3種で遺伝子の攪乱を防ぐため種子の採取は演習林内で行っている。又立ち枯れ予防の為、試験的に土壌を焼却処理し、葉腐病対策として発芽後に火山灰土で覆うという作業を試みている。大変良い効果が出ているとのこと。産地別試験地、母樹別試験地、標高別試験地を案内して頂きましたが、皆樹種見本林などに大変に興味をもち、樹木園を後にする時すっかり日が暮れてしまいました。

セミナーハウスへ向かう道は広い峠道で以前は演習林の鉄道線路が有った所だと伺いました。

セミナーハウスの食堂では夕食の準備ができておりました。鍋料理をたらふく頂き、それぞれ早めに部屋に戻って眠りました。

10月6日(火) 三日目

朝食後、宮本先生がカラフトイソツツジのハーブティーを入れて下さいました。

8時30分、マイクロバスに荷物を積み込み、お世話になったセミナーハウスの職員の方々とお別れの挨拶をして出発です。

「すいか峠」を越え、国道脇の広場にバスを止めました。「ポン太前択伐林」を外側か



ポン太前択伐林の見学

ら観察する場所です。バスから降りて先生のお話を聞きながら、この森を観察しました。上層には三角形の青葉の針葉樹や丸みのある黄色や薄緑の広葉樹が混在し、樹種が多様で森全体に調和が取れており、又各々の樹木は生き活きと枝を張っている。「理想的な美しい森」の見本がこれだと気がつきました。道路をへだて反対側に国有林が観察できます。皆伐し一斉造林した針葉樹林の林相です。見比べるとその違いが良く分かります。初日に宮本先生から渡されたB

4版の紙に描く「正解」はこれであったのかと納得した次第です。

北海道演習林が目指している「林分施業法」による「天然林施業」の理論を実践した結果出来上がった森だとの事でした。

10時前、いよいよ最後の見学地「神社山自然観察路」へ向かいます。今日も芦別岳が美しい姿を見せています。「神社山自然観察路」は153haの林内に、針葉樹又広葉樹が多い天然林、山火事跡の天然林、人工林など色々な林相を持った森林が観察出来ます。それぞれの森は全く違う雰囲気を持っていることに驚きました。特に針広混交林では葉を通した陽光が優しく森に入り、緑色に包まれた素敵な空間になっていました。先ほど見学した「ポン太前択伐林」とセットで観察できたことに感激しました。この森で学生達に実習させている択伐林分においての選木について、学生と職員とがそれぞれ選んだ木に印が付いているのを見ながら説明を聞きました。天然林施業において択伐される木には必ず伐られる理由（選木方針）がある。それを知ることが肝要であるとのことでした。



神社山の択伐実習林で

この森で宮本先生の言葉。

演習林では、大きく環境を変えないと云うことが大事と考えている。貴重な植物が群生し、生態系が守られる所以です。調査、管理、施業の為高密度道路網が整備（密度41m/ha）されており、160m歩けば道路に出る。演習林全域を徒歩で調査することがある。これが出来るのも道路が有るから。林道は構造から見れば連続したギャップであるが影響は少ないと見込んでいる。研究でもある。

神社山自然観察路を出て、「富良野市生涯学習センター」で昼食を取り、センター内の展示品や博物館を見学しました。展示室に“どろがめさん”こと高橋延清さんの展示コーナーがあり、有名な赤い帽子とリュックサックが写真やパネルと共に展示してありました。私にとって本やテレビでお馴染みでしたので大変嬉しく思いました。

時間になり、馴染みになったマイクロバスに乗り「JR富良野駅」までお送り頂きました。夢のような3日間があつという間に終わってしまいました。又訪問したいと思いました。14時00分ここで解散となりました。

北海道産の木のコースターなどのおみやげにいただき大変記念になりました。

3日間に渡って付きっきりでご案内頂き、沢山のことをお教え頂きました宮本先生、又全日程について完璧に計画手配し、最後までお世話くださった村川主任に心からお礼を申

上げます。有難うございました。

北海道演習林見学会に参加して

和波 牧子

北海道演習林の見学は、いままで何となく憧れてきた、北海道の自然の素晴らしさを実感出来ただけではなく、人間が、試行錯誤しながら森林に関わってきた歴史が感じられるものでした。天然林施業の実際の現場を見せて頂けたことは、素晴らしい体験でした。

初めての北海道、トドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ・ウダイカンバの巨木が見たいという、単純な動機で参加しましたが、それらの樹木を含め、多くの木々が作り上げる森林生態系の素晴らしさは、心に残るものでした。

この時期、色とりどりの紅葉・黄葉に彩られた広葉樹と、深緑の針葉樹との対比は、目にも鮮やか、パッチワークの様な針広混交林の美しさを、実感させてもらいました。この時期を選んでくださった事に、感謝！！します。春の芽吹き頃も、すてきでしょうね。

また、原生的自然林と、天然林施業が行われている元気で活力のある森林の、それぞれの特徴・違いを見せていただいた事は、規模は違うにしても、千葉の森林を見るうえで非常に参考になりそうです。やはり、森林をよく知っている方に案内していただくと、今まで見えなかった物が見えてくるようです。

山を歩き、森を歩き、湧水の冷たさを感じ、時おり姿を見せてくれたエゾユキウサギ・エゾシカ・キタキツネにちょっと驚き、鳥やナキウサギの声に耳をかたむけ・・・なかなか他では味わうことのできない体験でした。

宮本先生、村川さんをはじめ北海道演習林のみなさま、見学会にお誘いくださった千葉演習林と Abies のみなさまに、感謝いたします。

10月度(2)ボランティア活動・報告

～天津小学校:緑の教室サポート～

石川 輝雄



コナラのどんぐりの種まき体験

10月27日(火)天津小学校:緑の教室が清澄周辺を会場としておこなわれ、Abiesとして手伝いに参加しました。参加者は石川夫婦、石松夫婦、岩崎さんの5名です。

天候は終日快晴で快適な1日です。

この教室は地元の天津小学校の5年生の野外活動教室として例年おこ

なわれている行事で森と自然を楽しみながら勉強するプログラムが組まれています。班分けをして各々のプログラムを順次回る形式で行われます。

今回の役目は石松夫婦、石川（れい）、岩崎さんの4名は各班に同行して、案内する演習林の先生の手伝い、石川（輝）はプログラムの一つである毘沙門でのどんぐり植え体験の手伝いです。

プログラムは次の通りです。

1. 木の伐倒（切り倒す）見学と森林の観察

清澄作業所の前の道路を少し下った右側奥の「東漢森」の土場（材木などを加工、貯蔵する広場）で演習林の職員がチェーンソーで木を切り倒す所を見学して、実際倒した木を観察してから歩いて近くの森を観察します。この近くには「荒檜沢」のモミ・ツガ天然林やカシなどの常緑天然林と「今澄」のスギ高齢人工林があり、演習林の代表的な森を見ることができます。

2. ぶり縄による木登り体験

ぶり縄とは昔から使われている木に登る道具で、縄（シュロの皮が材料）の両端に棒がついた形になっています。この棒を木に縄で巻きつけ、これを足場にして登ります。

もちろん落下防止のため、別の綱で体を支えています。子供たちにはスリルがあり、皆怖いながらも楽しい体験です。今年は清澄作業所構内のイチヨウの木を使っておこないました。



ぶり縄による木登り体験

3. 「清澄の大杉」の太さと高さを調べる

「清澄の大杉」は樹高43m/幹周15.2m/樹齢500年（資料）の県内有数の巨木で国指定の天然記念物です。

太さはスギのまわりを子供たちと保護者が手をつないで一回りしてから、その長さをはかり（円周を測る）、直径を計算します。普段は柵で囲いがあって木の根元には入れませんが、今回はお寺に特別に許可をもらっての測定です。

樹高は二等辺三角形の斜辺の先に木の頂上をとらえて、測定点から木までの長さで樹高を測る簡易形の測定機（通称：さんかく君）や音波の反射を利用したデジタル樹高測定機（VERTX）を使います。

4. 「毘沙門」の傾斜地へのコナラのどんぐりの種まき体験

「毘沙門」という場所は「麻綿原」へ向かう「一杯水林道」のお寺側の車止めゲートの先の地名です。体験場所はゲートの先すぐ左側の急な傾斜地で周囲にシカよけの柵がはってあります。ここは間伐材を組んでさらに崩壊するのを防いでいます。

そのままでは間伐材が腐ってまた崩壊が始まるので、根を深くはるコナラの木を植えて育てて崩壊防止をするという説明を聞いてから、各自どんぐりを3～4粒もって実際に植え付けます。

5. 丸太切り体験

昼食後の時間を利用して丸太切り体験をおこないました。丸太はスギやヒノキの10から15cm位の太さのものです。木の種類、乾燥の度合い、太さ、節のあるなしなどの状態によって切りやすさが違うことを体験します。

例年、一番熱心に挑戦をするプログラムで、途中で切ることをあきらめた子供は一人もいません。各自、自分の切った木の円板を大切に持ち帰っています。



丸太切り体験

1 月度 ボランティア活動・募集案内

～冬の森を歩こうサポート～

演習林が参加者を募集している「公開講座・冬の森を歩こう」のサポート参加者を募集します。今年は土曜日と平日の2日間実施されますので、どちらかに参加申し込みください。土曜日には参加条件があります。

日 時 平成**22**年**1**月**16**日(土) 日帰り
1月**20**日(水) 日帰り

内 容 冬の森を歩こう予定コース(郷台林道・東ノ沢ゲート→元清澄山→西ノ沢→F歩道→郷台作業所:約5km)の案内と安全確保。両日とも同じコースと内容です。

集 合 両日とも 9時に清澄作業所、解散は15時頃の予定です。

定 員 *1月16日(土) 3名
元清澄山近郊の道に詳しく、案内者のある程度の質問に対応できる方

*1月20日(水) 10名
申し込み順に受け付けます。

受付期間 ~平成21年12月25日(金)

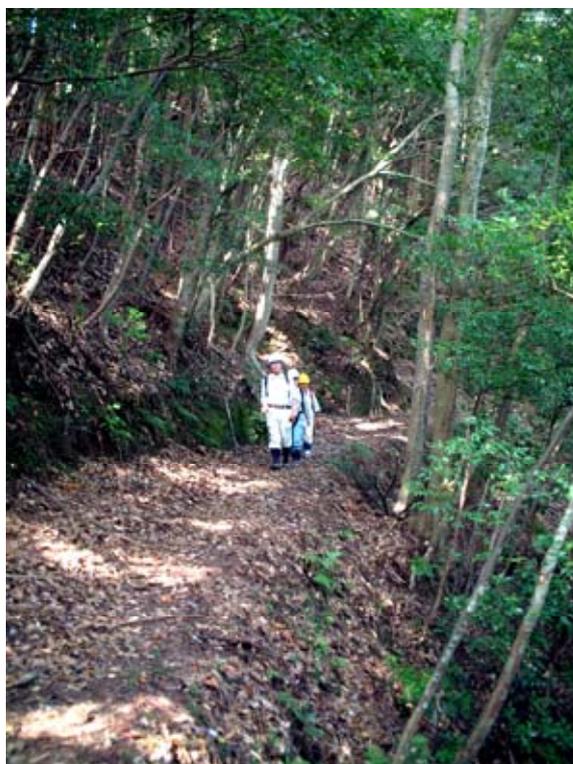
持ち物 筆記用具、弁当、野外活動ができる服装、靴(登山靴などしっかりしたものや地下足袋)、タオル、雨具、リュック、ヘルメット(あれば)、保険証、会員証など

雨天時 中止

申込方法 ・電話、FAX、E-Mailのいずれかで申込みください。

・千葉、木更津、茂原などから Abies 会員の車に同乗して参加する方法ができる場合があります。申し込み時相談ください。

・参加には千葉演習林ボランティア会 Abies 事務局への入会登録が必要です。



申込み問い合わせ先

千葉演習林ボランティア会 Abies 事務局 石川 輝雄宛

千葉演習林ボランティア会 Abies 通信 2009/12/10 発行

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102

TEL/FAX : 043-251-1390

石川 輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770

TEL:04-7094-0621 FAX:04-7094-2321